

令和5年度 第1回 四万十町地域公共交通会議 議事録

○開催日時：令和5年度6月20日（火）13：15～14：15

○会場：四万十町 農村環境改善センター 多目的ホール

○出席者：森 武士（四万十町 副町長）

山 本 圭（高知運輸支局 主席運輸企画専門官）

宮野 広至（高知運輸支局 主席運輸企画専門官）

別府 慶一（高知県中山間振興・交通部交通運輸政策課 課長）

（代）横山 厚史（高知県中山間振興・交通部交通運輸政策課 チーフ）

吉岡 真佐人（株式会社四万十交通 代表取締役）

三浦 ひろみ（有限会社丸三ハイヤー（本社） 専務取締役）

國元 豊美（窪川地区 住民代表）

津野 修三（大正地域 住民代表）

谷崎 直子（十和地域 住民代表）

□オブザーバー：木村 圭佑（四国運輸局 交通政策部 交通企画課長）

□事務局：川上 武史（四万十町 企画課長）

中川 貴之（四万十町 企画課副課長）

北村 耕助（四万十町 大正地域振興局長兼地域振興課長）

富田 努（四万十町 十和地域振興局長兼地域振興課長）

谷岡 美希（四万十町 大正地域振興局地域振興課 主幹）

西内 隆朗（四万十町 十和地域振興局地域振興課 主任兼選管書記）

柴 優 樹（四万十町企画課 主任）

久保田 啓嗣（四万十町企画課 主事）

土居 貴之（合同会社えこ・まち研究室 代表社員）

◆議

事：1.開会あいさつ（会長）

2.報告事項

(1)これまでの取り組み報告……………資料1

(2)路線バス利用状況……………資料2

(3)コミュニティバス利用状況……………資料3

(4)バス乗車ヒアリング結果の報告……………資料4

3.協議事項

(1)コミュニティバス路線再編について……………資料5

(2)令和6年度四万十町生活交通確保維持改善計画……資料6

4.その他

(1)令和5年度の事業推進について……………資料7

5.閉会

議事録

1. 開会

- (1) 事務局 開会のあいさつ
- (2) 会長挨拶
- (3) 委員の自己紹介
- (4) 資料の確認
- (5) 会議の成立について

(事務局) 四万十町地域公共交通会議設置要綱に基づき、委員 9 名に対し本会への出席が 9 名で過半数に達しているため本会議が有効に成立したことを報告申し上げます。

2. 報告事項

(1)これまでの取り組み報告(資料1)

(事務局) 資料 1 を説明

(谷崎委員) バスの乗り方教室は十和地域では実施しないのか

(事務局) 十和地域については、開催時期が令和 4 年度末だったこともあり、調整がつかず令和 5 年度に実施するよう検討しているところ。

(谷崎委員) 了解した。

(2)路線バス利用状況(資料2)

(事務局) 資料 2 を説明

(山本委員) 前年度より大正駅からの学生の利用が多くなっているということだが、なぜか？

(事務局) 定期で毎日通っている方がいるので、それに対して利用者数が多くなっている。

(國元委員) ホビー館線について、ホビー館に行くまでに民家はあるのか。

(事務局) 民家はある。この路線については観光客をメイン対象としているため、運行日も日祝のみとなっている。主に JR を利用された方が打井川駅から、この路線バスに乗ることを想定して設けた路線。利用者数は少ないという状況。

(事務局) ホビー館は連絡したら送迎しているようだが、毎回人員をそこに割けないため路線バスを使って補っている。

(会長) この路線は一般の人でも途中乗車できるか？

(事務局) 可能。

(会長) かつば館にも行けるか。

(事務局) 可能。

(会長) 資料を見ると利用者が少ない。打井川駅で下車し、ホビー館に行くにはまずこの路線に乗るということか。

(事務局) このバスか、時間帯が合わなければホビー館に連絡して送迎できるか確認する、という流れになる。

(3)コミュニティバス利用状況(資料3)

(事務局) 資料3を説明

(國元委員) 数ページに渡って、各ページ下部に循環線と表記があるが、どういうことか？

(えこ・まち土居) 循環線とあるが、実際にぐるぐる回るわけではない。二股に分かれている路線では同じ経路をたどらず、1回通ればそのまま帰る経路にしていることに加え計算方法の観点からも循環線と同じ扱いとしている。

(4)バス乗車ヒアリング結果の報告(資料4)

(事務局) 資料4を説明

(山本委員) ヒアリング調査の年齢構成を40歳代以下とひとまとめにしたの、どういう意図があるのか。

(事務局) 主な利用者が高齢者であると想定しており、40歳台以下は少ないものとみて設定した。しかし、実際調査を行うと学生の利用や若者で通勤に利用されている状況で、もう少し細かな分類が必要だったと思う。

(山本委員) アンケートを見て、40歳代以下は学生の利用と一般の利用が混在している。この層の人数がどのくらいいたのか、学生であれば中学生か高校生か、高校生であれば例えば町外にJRを利用して出かけるのかなど、せっかくヒアリングしたのにイメージがしにくい。次回行う際には10代ずつの区切りで調査してほしい。

(事務局) 学生か否かの区別はできているが、中・高かも分かった方がいいということで了解した。

(山本委員) 学校の通学や塾での利用といったイメージは想像できるが、せっかくのヒアリング調査なので利用者が路線バスを利用するその目的や要求について、学生ならどういうものが求められているのか、社会人ではどうか、分析がしにくいのでもう少し細かく分類した方がいい。

(國元委員) 住民の声を反映しているのは大事なことだと思う。一回限りではなく1年を通してアンケートをして、山本委員も言われたが、もっと細かいアンケートを取り入れた方がいい。

(事務局) 調査中利用者がいないときに運転手さんとも話したが、やはり短期間、その間だけ乗るだけでは状況把握は難しい。職員が把握し続けていくことが大切だと感じた。

(会長) せっかくのアンケートなので利用増加の手がかりとなる資料にしていいただきたい。

報告案件については以上でよろしいか。

(委員一同) なし。

3.協議事項

(1)コミュニティバス路線再編について(資料5)

(事務局) 資料5を説明

(会長) 路線再編については、原案の通り承認するということによろしいか。

(委員一同) 異議なし。

(会長) 提案のとおり設定するようにする。

(2)令和6年度 四万十町生活交通確保維持改善計画

(事務局) 資料6を説明

(会長) 令和6年度については、それぞれ目標を定め、かつ具体的な数値をもって前年度を下回らないといった国の方針で取り組みを進めている。これについては国土交通省の補助金を窪川地区のコミュニティバスと十和地域のコミュニティバスの一部に充てる補助事業の関係もあり交通計画を作成しなければならない、ということであった。

質問等はないか。

(國元委員) 前年度を下回らないようにするということが、高齢化や人口減でもあるので、数値のみに拘らず一人でも利用者がいれば車を出してもらいたい。

(会長) そのための聞き取り調査も行っており、引き続き要望があれば対応していく。特に質問がないようでしたら、令和6年度四万十町生活交通確保維持改善計画について提案のとおり承認するということよろしいか。

(委員一同) 異議なし。

(会長) 提案のとおり設定するようにする。

4.その他

(1) 令和5年度の事業推進について

(事務局) 資料7を説明

(会長) 令和2年に綱計画を策定し、この計画は令和7年度までの計画。この3年間はコロナによって取り組みができていない部分があるので、今年度末をもって

1年前倒しで終了する。その後期の計画として地域公共交通計画を策定するという説明だった。

(津野委員) コミュニティバスも含めて、車いすの方が利用できる車両はあるのか。

(吉岡委員) 3台あるものの、2台が大野見線、残り1台が佐賀線で運行している状況。今後、車いすの方が乗れるよう検討している。

(谷崎委員) 計画についてはできなかったものを次の6年度までに計画を作成するということか？

(事務局) 今の網計画に載っている内容を整理するというイメージ。できている部分、地元の方と話して「もういないよ」と言われた部分等を整理して、本当に行くものだけを再度計画し作成する。公共交通計画を作成したうえで、利便増進計画を作成する。例えば現状、影野線など全く利用されていない路線バスをやめてコミュニティバスへの置き換えを検討したり、コミュニティバスの一日運行の中で乗れない人がいるため便数を増やすといった、皆様のご意見を聞きながら改善に努めるというところ。利便増進計画を作成することで国の方から補助金が交付されるので、その元になる公共交通計画を作成する。各種計画を段階的に作成していくということで、今やっていることを全部やめるということではない。

(会長) 最後の議題については次の機会と非常に関係性があるため、その場で詳しく説明差し上げたいと思う。

他に意見等ないようなら閉会してよろしいか。

(委員一同) 異議なし。

5.閉会